

校長だより

兵庫県立伊川谷高等学校

October 31th, 2022

「歴史総合」の授業づくりをテーマとした研究大会を行いました

10月28日（金）、兵庫県学校厚生会館を会場として令和4年度兵庫県高等学校教育研究会社会（地理歴史・公民）部会神戸・阪神支部合同研究大会を行いました。今年度の研究大会のテーマを「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた『歴史総合』の授業づくり」とし、社会部会神戸支部の事務局を担当する本校の地歴・公民科の教師が中心となって大会を運営しました。

当日は神戸・阪神地区だけではなく兵庫県下から60名近くの方々に参加していただき、熱気ある研究大会となりました。

授業におけるICTの活用方法および評価方法についての発表

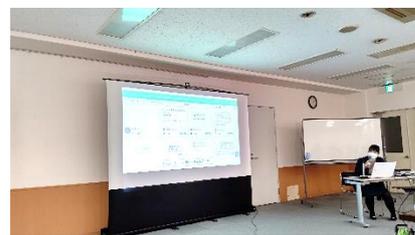
発表①では、本校の桑山延泰教諭が「歴史総合」でICTを活用し、生徒の学びを豊かにする方法について発表しました。授業では、「テーマの問い」を生徒に示した上で生徒が、そのテーマに取り組む上で知識を効果的に得るための授業動画や画像配信の手法についての紹介がありました。さらに「Google classroom」を使った「サイレントディベート」の実践や「Jambord」、「Padlet」を使った生徒の意見の集約・共有の方法、「Google Notes」を使った「歴史新聞」づくりなどの紹介がありました。

ICTをツールとして活用し、生徒を主体とした歴史学習を進め、「生徒を歴史の舞台に立たせる」という桑山教諭の提案は、教師主導・通史学習中心であった授業を改善する上での新たな視点といえます。

発表②では、御影高校の金谷蔭教諭より、「歴史を学ぶ、歴史から学ぶ、歴史で学ぶ」を「歴史総合」の授業のねらいとし、まず授業のまとめりごとに教師が示したり、生徒自らに立てさせた問いを意識させながら授業を展開し、最後に生徒に自分の言葉で問いの答えを説明させるといった主題学習の授業実践の紹介がありました。

さらに評価の方法として、授業で示された問いに対する生徒の答えに対する評価の手法や定期考査での観点別評価の方法、さらには授業の振り返りのために生徒に「1枚ポートフォリオ」を作成させるといった実践の紹介もありました。

2本の発表のあと、参加者からは「ICT教材を作る際の工夫のポイント」、「生徒の成果物等の効果的な採点方法」、「ICT活用にあたっての著作権への配慮」、「『歴史総合』を『歴史探究』にどのようにつなげるのか」、「ICT機器がうまく使えない場合の対処方法」などと質問が出されました。参加された方々の熱意を大いに感じることができました。



生徒の意見を共有する手法を紹介する金谷教諭

『歴史総合』の授業を創る」の講演について

実践発表後に講師としてお招きした兵庫教育大学名誉教授原田智仁氏に講評と講演をしていただきました。原田氏は、歴史教育に関する著書が多数あり、学習指導要領の改訂にも携わられた経験もある歴史教育の第一人者です。今回の発表者や参加者にエールを送っていただくとともに、歴史教育に携わる現場の教師に対し、たくさんの温かいメッセージをいただきました。その一部を紹介します。

- 「『歴史総合』は、各時代で近代化・大衆化・グローバル化が相互に関連する構造となっている。したがって設定された大単元を一通り授業で扱うことが必要」
- 「教師間の合意をもとに評価疲れに陥らない評価の工夫が必要」
- 「教師自身が近現代史に関心を持つ必要がある」
- 「教師が教材研究に力を注げるような働き方改革が必要である」
- 「歴史上の人物へのエンパシー（共感）を活用した『もしあなたが～なら』といった問いが効果的である」
- 「骨抜きにされ、ついには消えた『現代社会』を負の教訓にして、理念に基づいた『歴史総合』の授業を展開して欲しい」



講演中の原田氏と参加者

原田氏からいただいたメッセージを大切に、引き続き授業改善に取り組んでいきたいと思っております。